

## ホストタウンシンポジウムの開催(2019年2月25日) (於:南陽市民ホール:シェルターなんよう)

2019年2月25日、2020年東京オリパラに向け、バルバドスのホストタウンとなった山形県南陽市において、ホストタウンシンポジウムが開催されました。シンポジウムでは、この時期日本に帰国していた品田大使が講演を行い、バルバドスの文化・歴史・スポーツなどについて紹介しました。

また、バルバドスからは南陽市の国際交流員、オリンピック出場を目指す女性アスリート(柔道・陸上)2名及びスティールパン演奏者1名も参加しました。

また、女性アスリート達は市内の学校において柔道・陸上を通じて南陽市の若い世代と流を深めました。



左より白岩南陽市長と品田大使



品田大使による講演



パネルディスカッションの様子

左より ドーン・スプリングー(南陽市国際交流員)  
 オノオオバシ・オケイ(柔道)  
 ソーニア・ガスキン(陸上)  
 アリエル・ナース(スティールパン演奏者)  
 品田大使



スティールパン演奏・紹介

## 市民とのスポーツ交流



柔道:オノオオバシ・オケイ&南陽市柔道連盟メンバー



陸上:ソーニア・ガスキン&南陽市陸上協会メンバー

## 文化体験



茶道体験の様子

2019年（平成31年）2月26日（火曜日）

社会

1人

ホストタウン

受け入れ準備着々



Ms. Dawn Springer

Ms. Onob-Ohasi Okey

パネルディスカッションで、南陽市の印象について聞かれるバルバドスの女性アスリート＝南陽市・シエルター・なんようホール

### 「おもてなし、ありがたい」バルバドス学ぶ 南陽でシンポ

東京五輪・パラリンピックで、南陽市のホストタウン対象国の中米バルバドスについて学ぶシンポジウムが25日、同市のシエルターなんようホール（市文化会館）で開かれた。品田光彦（てるひこ）駐バルバドス大使の講演や五輪出場を目指す女性アスリートらによるパネルディスカッションを通し、交流促進について考えた。

聴講者約180人を前に品田大使が基調講演し、1966年に英国から独立したバルバドスの政治やスポーツ史について紹介した。

品田大使がアドバイザーを務めたパネルディスカッションでは、市の国際交流員、五輪出場が有望視されるバルバドスのアスリートなど20代女性4人が登場。「南陽の皆さんのおもてなしがありが

たい」「（五輪出場権を得て）来年また南陽でのキャンプに戻ってこられるように、練習を頑張りたい」など、交流の中で感じた思いを語り合った。

南陽市は2017年7月にホストタウンに登録され、昨年12月にはバルバドスオリンピック協会と事前キャンプ受け入れに関する合意書に調印した。

（多田良宏）

2019年2月26日付 山形新聞記事